

2023年11月

『歴史探偵 忘れ残りの記』

～ 自伝的エッセイ～

半藤 一利

半藤一利さんは、ジャーナリスト、作家であり、特に昭和史研究の第一人者として知られています。NHK『その時歴史が動いた』など歴史番組に出演されていました。

半藤さんの奥さんも随筆家で夏目漱石の孫として知られています。2021年1月、老衰でなくなりました。90歳でした。

半藤さんは常々、

「歴史というのは、文献と文献の間に何かおかしいものが必ずある、そのときはしっかりと推理、探偵をする必要がある。調査して、分析して、さらに推理を加えて、間違いない事実を掘り出すんだ」、と述べられています。

今回のオススメ本、『歴史探偵 忘れ残りの記』は、歴史のよもやま話から悪ガキ時代を描く自伝的エッセイ集です。何気ない日常のことから昭和史の裏側まで、半藤さんの喜怒哀楽をまじえて書かれています。

みずからを“歴史探偵”と呼び、当事者への徹底的な取材、そして、史料の検証によって昭和という時代に向き合い続けた半藤さんの鋭い視点をとところどころに感じることができます。

ちなみに、現在のNHK歴史番組、「歴史探偵」は半藤さんをオマージュした番組です。

自身最後となる原稿に、みずからの人生を振り返るように書き残した半藤さんの言葉は、どこか懐かしくもあり、心に響くものがありました。

